

今年度の取組と自己評価

1 教育課程の実践に向けて

(1)教育目標

人権尊重の精神を基本として、心身ともに健康で、知性と感性溢れる人間性豊かな生徒を育成し、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指し、次の教育目標を設定する。

○深く考え自ら学ぶ生徒 (知)

◎思いやりのある心豊かな生徒(徳) 【重点】 自他にやさしく大切にする力

○健康でねばり強い生徒 (体)

(2)教育目標を達成するための基本方針

○「深く考え自ら学ぶ生徒」の育成

◎「思いやりのある心豊かな生徒」の育成

○「健康でねばり強い生徒」の育成

【取組と評価】

○「深く考え自ら学ぶ生徒」の育成

- ・授業規律を確立ことを第一とし、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、個に応じた指導を行った。しかし、生徒一人一人の基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得にはいかなかった。少しずつではあるが、生徒が自ら進んで学ぶ姿勢がみられるようになってきた。
- ・身につけた知識及び技能を自ら活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育むための話し合い活動を多く取り入れた。
- ・単元や題材など内容のまとまりを見通しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるとともに、授業はじめに前授業の復習をしたり、授業終わりに本時の振り返りを行ったりした。さらに、小单元ごとの確認テストを実施するなど短いスパンでの学習状況の確認を行い、深い学びにつなげた。
- ・八王子市GIGAスクール構想の下、生徒・教師のICT活用力の向上を図ることで、生徒の学習活動の幅を広げるとともに、生徒の興味関心を引き出すことができた。ICTの活用は、かなり進んできている。

◎「思いやりのある心豊かな生徒」の育成

- ・人権尊重の精神に基づき、全ての教育活動を通して、自他の生命尊重、多様な他者への思いやりの心の育成を進めた。生徒会主導で『素敵なできごとBOX』を設置し、他者へのやさしさに関する投書を集め、紙面発表する企画を実施するなど、日常からやさしさの意識を高めることができた。

- ・道徳教育や体験活動、表現活動を通して、生徒の内面に根ざした道徳性を育成し、互いの人格を尊重し、思いやりや豊かな心を育成した。特に、体育大会や合唱コンクール、宿泊行事や職場体験では、他者への思いやりに加え、自己有用感や集団としての規範意識の醸成を進めることができた。
- ・いじめ総合対策を進めるため、毎週行う学校いじめ対策委員会を中心として、いじめに対する未然防止、早期発見、早期解決に取り組んだ。また、日常の生徒観察に力を入れ、生徒の変化を素早く察知するよう努めた。

○「健康でねばり強い生徒」の育成

- ・保健体育や家庭科、総合学習の時間を中心に、心と身体健康や生活環境に関心をもたせ、自分の周りの健康についても考える機会をもった。また、保健委員会や養護教諭からの健康安全に関する啓発を定期的に行った。
- ・安全な行動や規律ある集団行動、様々な体験活動を通して、健康で安全な生活を送ることや努力が達成感につながるなど、ねばり強く取り組む態度を育成した。

2 今年度の重点目標と方策

グローバル社会で活躍できる人材の育成をめざして

○学校全体で思いを共有し、連続性を意識した学級・学年・分掌の経営を進める

- ・各学年、各分掌で仲間意識をもち、協同した指導の実践
- ・教育公務員としての意識を高め、危機管理の在り方や仕事の在り方の工夫改善
- ・各教室や学校全体での環境整備や教育活動への雰囲気づくり

○自他の生命尊重と多様な他者への思いやりの心を育成し規範意識の醸成を進める

- ・自他に優しく、一人ひとりを大切にする生活指導の充実
- ・いじめ対策委員会の定例化の下、全教員による共通理解といじめ撲滅の強い意識
- ・SC 面談や QU アンケート、ハートフル面談、SOS の出し方など定期的な心のケアの実施

○生徒一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる方策を進める

- ・生徒が授業や家庭学習へ意欲的に取り組むための環境づくり
- ・補習学習や個に応じた学習の設定
- ・学力調査等の結果分析及び、授業改善
- ・Chromebook 活用の実践や研修の実施
- ・教師の専門性の向上と指導力の向上

○生徒一人ひとりが自分の良さや可能性を認識できるよう自己肯定感・自己有用感を育む

- ・行事や委員会活動・部活動等を通し、自らを鍛え他者との協力を体感できる環境づくり
- ・自己を高め、その後の生活に生かせるような体験活動の実施
- ・生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた特別支援教育の充実
- ・ポケットルームや不登校支援教員を活用した不登校生徒への対応

【様々な視点からの評価】

1 組織体としての学校の確立

- ・毎週のいじめ対策委員会を教員全員で実施し、毎回、SCからのミニ講話を実施した。
- ・各分掌等からの起案時期を設定しルール化したことで、組織の一員としての意識を高めた。また、会議の持ち方の改善や会議時間の短縮を進めた。
- ・各行事の反省を迅速に行い、反省点や変更点を確認した。また、次年度の実施要項案をすぐに作成し次年度の準備に着手した。
- ・各学年や各分掌において報告・連絡・相談を徹底し、一人で抱えることなく細やかかつ迅速な対応を協力して行った。

2 学ぶ意欲と家庭学習の定着

- ・基礎基本を重視した授業計画と主体的に取り組ませる課題作成を意識した。
- ・授業一時間の中に誰もが理解し取り組める課題を準備し、生徒の学ぶ意欲の向上を図った。
- ・小中一貫グループ3校による学力向上に向けての協議を学期に1回ずつ実施し、教科ごとに課題の検討を行った。
- ・英語、数学による少人数授業の実施と、1年数学によるティームティーチング授業を実施し、一人ひとりへの細やかな対応をした。
- ・放課後に、大学生ボランティアの協力を得て自主参加型の勉強会を実施した。

3 Chromebook や ICT の活用

- ・各教科において Chromebook の活用頻度を大幅に増やした。
- ・日常的に Chromebook の持ち帰りを実施し、生徒個々の活用を進めた。
- ・教員のさらなる活用を目指し、ICT 支援員によるミニ研修を実施した。
- ・テスト採点ソフトを導入し、テスト処理対応の効率化を図った。

4 互いを尊重しあえる心情の育成

- ・いじめをゆるさない指導を徹底し、いじめ対策委員会を全教員で行うとともに、日々の生徒観察と声掛けを実施した。
- ・「命の大切さをともに考える日」を設定し、全学級で生命尊重をテーマとした道徳授業を実施するとともに、公開授業とした。
- ・全学級で QU 法による分析を行い学級指導の検討や個々人の指導に役立てた。
- ・生徒が「相談できる大人」を最低一人はつくることできるようにするため、自分が話したい先生とのハートフル面談を実施した。
- ・教員間での情報共有と体罰禁止を徹底した。
- ・授業規律の定着を図り、落ち着いた学習環境を整えた。

5 特別支援教育の推進

- ・特別支援教育推進委員会を毎週開催し、情報共有だけでなく、支援方法の検討を行った。
- ・巡回心理士や特別支援専門員との話し合いを深め、校内体制や指導の見直しを行った。
- ・SSW やこども家庭支援センター、児童相談所と連携し、生徒や家庭の支援を行った。
- ・特別支援学級の生徒と一般の生徒の交流の機会を増やした。
- ・福祉体験を通して、ハンディのある方との接し方や体験活動を行った。

6 生徒の自己肯定感・事故有用感の育成

- ・学校生活のあらゆる場面で生徒自身の自己肯定感・自己有用感の育成を行った。特に、行事や委員会活動、部活動では生徒の主体的な活動の場面を多く設定し、達成感や満足感、協力して創り上げる喜びなどを会得できるようにした。
- ・キャリアパスポートを活用し、定期的に自分の行動を振り返り、自分を高める機会とした。
- ・学校内に週3日ポケットルームを開設し、登校しにくい生徒の居場所づくりを行った。開設当初は、参加することだけに重きを置いていたが、回を重ねるごとに自主的に学習姿勢がみられるようになったことは大変良かった。

7 郷土学習の取組

- ・長期休業日を利用し、全学年で郷土に関する調べ学習を行った。
- ・家庭科では郷土の食材について学び、調理実習に生かした。
- ・八王子の伝統文化(泥かぐら)の鑑賞を行った。

次年度に向けて

○「深く考え自ら学ぶ生徒」の育成

教育目標の一番に掲げているものである。

教員による指導法の工夫改善、生徒自身による自主的な学びの実現。

◎「思いやりのある心豊かな生徒」の育成

教育目標の重点に掲げているものである。

自他にやさしく、多様な他者への思いやりの心の育成。

自己肯定感や自己有用感、達成感や協力して創り上げることの喜びの会得。

この2点を最重要課題とし、生徒が喜んで登校し、教職員が生き生きと活動し、保護者・地域に愛される学校を目指す。